議題３

平成３０年１１月１２日
学校教育部指導第一課
学校教育部指導第二課

平成３０年度全国学力・学習状況調査の結果について（報告）

１　調査の概要

(1)　調査の趣旨

①　全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②　各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

③　各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2)　調査対象

区　分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	県	市	国	県	市
小学校第６学年	19,433	473	142	1,030,031	23,875	10,470
中学校第３学年	9,630	241	64	967,196	21,568	9,063

（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

(3)　調査期日

平成３０年４月１７日（火）

(4)　調査内容

〈小学校第６学年〉

①　教科に関する調査
- 国語、算数の、主として「知識」に関する問題〔Ａ問題〕
- 国語、算数の、主として「活用」に関する問題〔Ｂ問題〕
- 理科の「知識」「活用」をともに問う問題（３年に１回、前回は平成２７年度実施）

②　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童質問紙調査

③　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

〈中学校第３学年〉

①　教科に関する調査
- 国語、数学の、主として「知識」に関する問題〔Ａ問題〕
- 国語、数学の、主として「活用」に関する問題〔Ｂ問題〕
- 理科の「知識」「活用」をともに問う問題（３年に１回、前回は平成２７年度実施）

②　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒質問紙調査

③　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

2　調査結果の概要

(1)　各教科の平均正答率

（昨年度より、各都道府県教育委員会及び各指定都市の結果は整数で公表）

【小学校】

（単位：%）

教科	国語						算数						理科		
類型	A問題			B問題			A問題			B問題					
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
H27 年度	70.0	73.8	72.9	65.4	69.7	68.1	75.2	77.7	76.4	45.0	46.7	45.7	60.8	63.2	62.1
H28 年度	72.9	78.4	77.2	57.8	60.5	60.1	77.6	79.7	79.1	47.2	49.5	49.4			
H29 年度	74.8	77	76	57.5	61	60	78.6	81	79	45.9	47	46			
H30 年度	70.7	73	72	54.7	59	58	63.5	66	64	51.5	54	54	60.3	63	62

【中学校】

（単位：%）

教科	国語						数学						理科		
類型	A問題			B問題			A問題			B問題					
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
H27 年度	75.8	76.5	75.6	65.8	67.0	65.8	64.4	64.6	63.9	41.6	42.7	41.5	53.0	52.2	50.9
H28 年度	75.6	76.6	76.1	66.5	67.9	67.0	62.2	62.1	61.0	44.1	44.8	43.2			
H29 年度	77.4	78	77	72.2	73	72	64.6	64	63	48.1	48	48			
H30 年度	76.1	76	76	61.2	61	60	66.1	66	65	46.9	46	46	66.1	66	65

(2)　正答数の分布状況（別紙１）

3　質問紙調査の結果について（別紙２）

〔児童生徒〕

(1)　学習意欲

(2)　自尊意識

(3)　思考力・表現力

(4)　学習習慣

〔学校〕

(5)　指導方法

4　特色ある学校の取組について

(1)　大町小学校（別紙３）

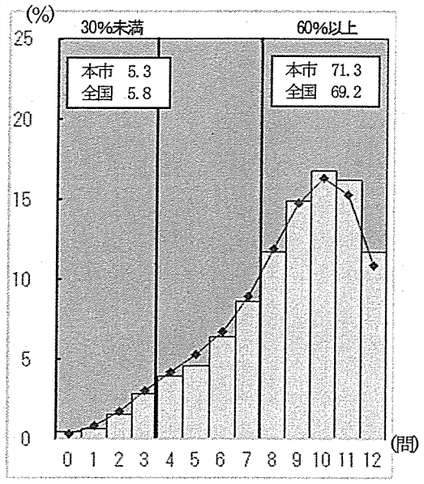
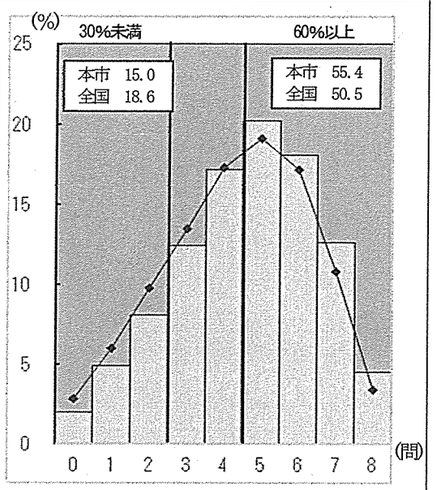
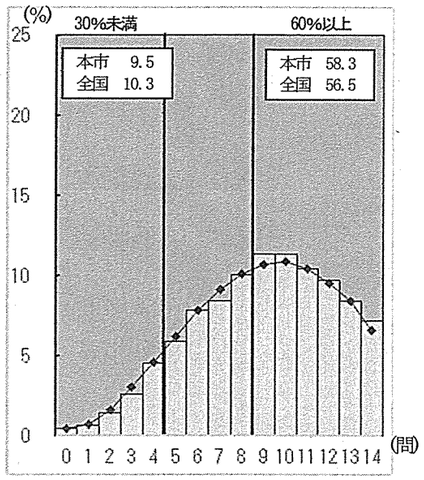
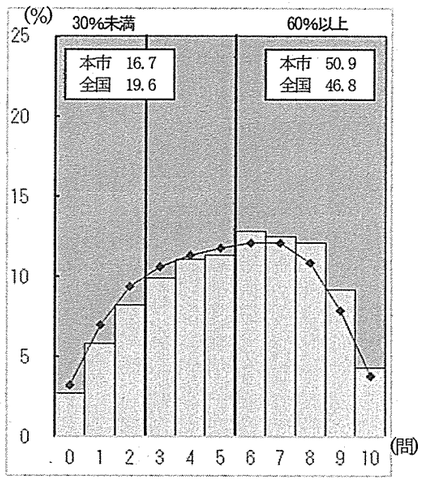
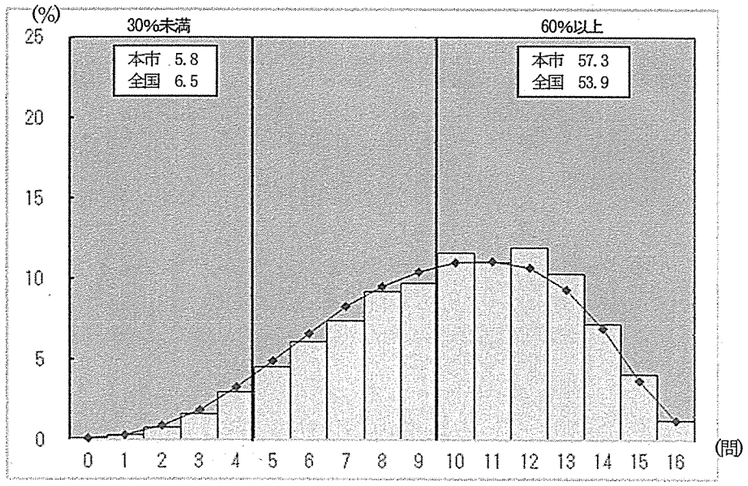
(2)　可部中学校（別紙４）

2　調査結果の概要
(2)　正答数の分布状況

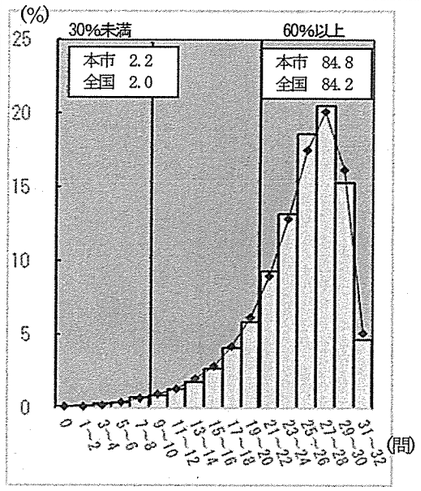
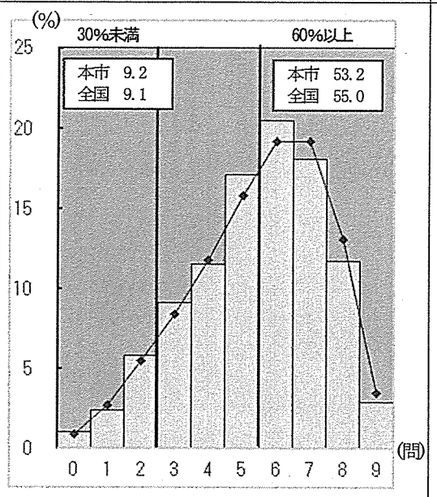
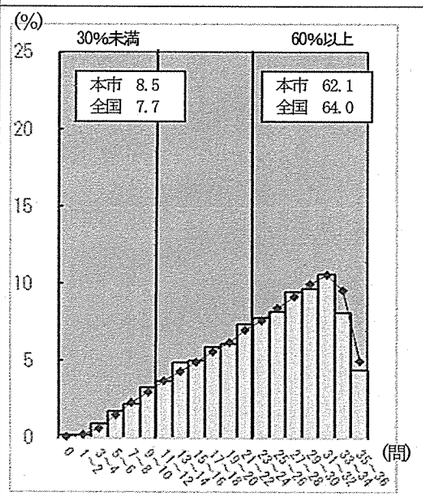
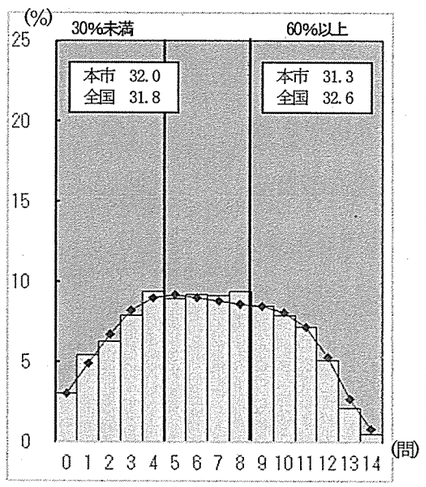
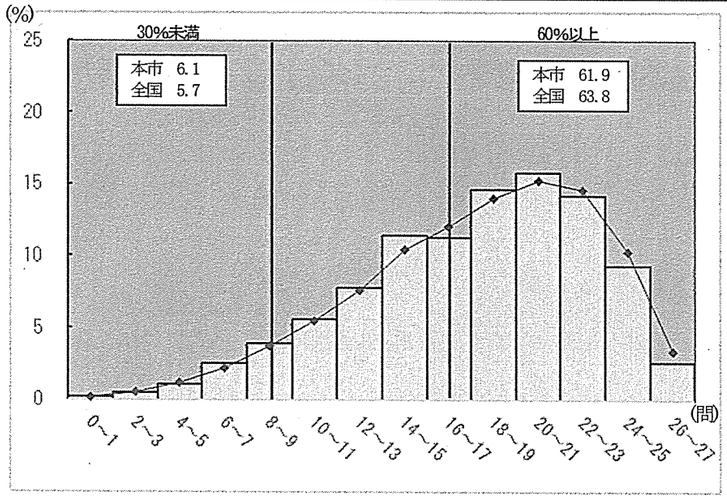
本市　全国

別紙１

①　小学校　対象：第６学年　正答数の分布

教科	A問題	B問題	特徴
国語			A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。
算数			A問題は、なだらかであるが、右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。 B問題は、やや右によった台形であり、学習内容の定着に課題が見られる。 A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。
理科			分布がなだらかであるが、右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。

②　中学校　対象：第３学年　正答数の分布

教科	A問題	B問題	特徴
国語			A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。 A問題では、30%未満の生徒の割合、60%以上の生徒の割合が全国平均と同程度である。 B問題では、30%未満の生徒の割合が全国平均より高く、60%以上の生徒の割合が全国平均より低い。
数学			A問題は分布が右よりの山形になっており、学習内容はおおむね定着していると見られる。 B問題は左よりの台形になっており、学習内容の定着に課題がある。 また、A問題・B問題とも、30%未満の生徒の割合が全国平均より高く、60%以上の生徒の割合が低い。
理科			分布がなだらかであるが、右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。 30%未満の生徒の割合は全国平均より高く、60%以上の生徒の割合は全国平均より低い。

別紙２

〔児童生徒〕①学習意欲　②自尊意識　③思考力・表現力　④学習習慣　〔学校〕⑤指導方法

抽出項目（経年変化）

【児童・生徒質問紙】

	設問（内容）	校種	H26	H27	H28	H29	H30
①	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた（新規）	小学校	—	—	—	—	76.7(76.7)
		中学校	—	—	—	—	78.1(73.8)
	国語の勉強が好き	小学校	60.4	61.4	58.9	60.0	—
		中学校	57.9	58.9	60.2	61.3	—
	算数・数学の勉強が好き	小学校	65.2	65.5	65.0	64.6	61.7(64.0)
		中学校	57.7	58.2	59.2	56.2	55.3(56.9)
	理科の勉強が好き	小学校	—	83.1	—	—	81.4(83.5)
		中学校	—	56.2	—	—	58.4(62.9)
②	自分にはよいところがある	小学校	80.6	80.0	79.9	82.1	87.2(84.0)
		中学校	72.5	73.9	76.3	76.6	83.2(78.8)
	将来の夢や目標を持っている	小学校	88.8	87.8	87.8	87.7	87.8(85.1)
		中学校	74.9	74.9	74.9	73.2	75.2(72.4)
	学校のきまり・規則を守っている	小学校	91.3	91.7	92.8	93.4	90.8(89.5)
		中学校	95.0	96.2	96.7	96.1	96.4(95.1)
	人の役に立つ人間になりたいと思う	小学校	94.8	94.4	94.8	93.2	95.9(95.2)
		中学校	94.7	95.1	94.0	93.1	96.1(94.9)
③	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	小学校	52.3	51.2	49.6	48.0	—
		中学校	64.8	61.4	59.1	58.1	—
	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した（新規）	小学校	—	—	—	—	62.3(61.0)
		中学校	—	—	—	—	58.4(53.8)
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小学校	68.8	68.0	70.3	69.3	79.4(77.7)
		中学校	65.4	66.5	69.9	69.1	80.0(76.3)
④	家で、学校の授業の予習をしている	小学校	40.6	38.2	39.4	37.4	—
		中学校	33.3	33.7	33.2	28.7	—
	家で、学校の授業の復習をしている	小学校	50.2	47.8	50.9	48.4	—
		中学校	50.1	50.8	50.1	47.1	—
	家で、学校の予習・復習をしている	小学校	—	—	—	—	57.3(62.6)
		中学校	—	—	—	—	52.2(55.2)
	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの勉強時間（３０分以上）	小学校	87.2	88.3	89.4	89.0	91.5(90.7)
		中学校	85.2	87.0	85.0	85.0	84.7(87.2)
	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）読書をしている	小学校	81.1	80.7	79.0	79.4	81.7(81.1)
		中学校	66.5	68.7	67.3	67.6	70.7(67.0)

【学校質問紙】

	設問（内容）	校種	H26	H27	H28	H29	H30
⑤	言語活動について、国語科だけでなく、各教科等を通じて、学校全体で取り組んでいる	小学校	83.6	90.1	90.8	84.5	92.2(94.2)
		中学校	76.6	81.3	86.0	90.7	89.1(90.7)
	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている	小学校	—	—	90.1	90.1	93.6(93.0)
		中学校	—	—	89.0	90.7	92.2(92.6)
	家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えている	小学校	89.3	91.5	92.2	86.6	94.4(93.3)
		中学校	82.8	82.8	89.0	90.6	79.7(90.2)
	算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業をしている	小学校	68.5	71.6	78.0	73.3	74.0(78.0)
		中学校	59.4	62.5	76.6	73.4	61.0(72.1)
	理科の指導に関して、実生活における事象との関連を図った授業をしている	小学校	—	70.2	—	—	81.7(85.7)
		中学校	—	93.7	—	—	87.5(90.7)

考察

【①学習意欲】

○　課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答している児童生徒の割合は、小学校では全国平均と同じ、中学校では上回っている。

●　算数・数学の勉強が好きと思っている児童生徒は平成 26 年度以降で最も低く、全国平均を下回っている。

●　理科が好きであると回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回り、平成 27 年度と比べて，小学校は 1.7%減少し、中学校は 2.2%増加している。

【②自尊意識】

○　自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合は、平成 26 年度以降で最も高く、全国平均を上回っている。

○　将来の夢や目標を持っている、学校のきまり（規則）を守っていると回答した児童生徒の割合は、平成 26 年度以降、全国平均を上回っている。

【③思考力・表現力】

○　自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【④学習習慣】

◇　予習・復習をする児童生徒の割合は、平成 29 年度までと比較して増加していると思われるが、全国平均よりも低い。

●　依然として予習・復習を全くしていない児童生徒が一定数いる。（児童 11.6%、生徒 15.2%）

（【参考・H29】
予習：児童 26.6%、生徒 35.1%
復習：児童 19.8%、生徒 20.6%）

●　家庭での学習を全くしていない児童生徒が一定数いる。（児童 2.2%、生徒 5.6%）

●　普段、読書をしている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度、生徒の割合は、全国平均よりも高い。基礎基本の学力向上のためにも、自主的に読書をする児童生徒の割合を高めていく必要がある。

【⑤指導方法】

●　言語活動について、国語科だけでなく、各教科等を通じて、学校全体で取り組んでいると回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均よりも低い。

◇　習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしていると回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同じである。

●　算数・数学の指導及び理科に関して、実生活における事象との関連を図った授業をしていると回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに全国平均より低い。

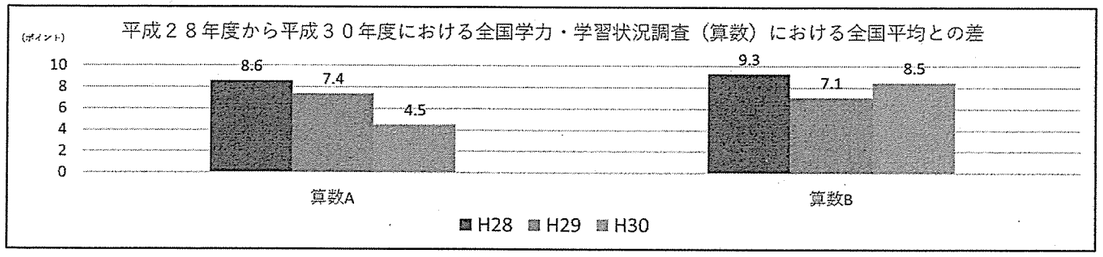
※　表中の▒は、全国平均を上回っている項目を示している　　※　表中「－」は、同年調査で実施していない設問を示している　　※表中、平成 30 年度（　）は、全国平均を示している。

別紙３

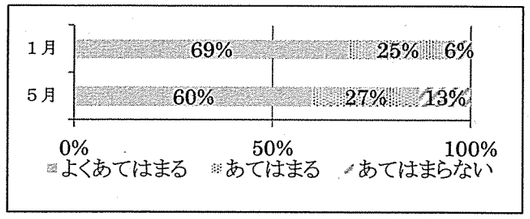
大町小学校　H29・30年度　学力向上推進事業「授業改善推進校」指定校
～分からない子“0”をめざした「みんなでわかる」「みんながわかる」授業づくりを通して～

1　全国学力・学習状況調査の結果

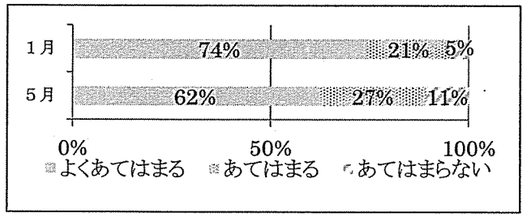
○　平成２９年度に続き，平成３０年度も算数ＡＢ共に全国平均を上回っています。
○　児童の意識調査の結果から，児童の中でペアやグループで対話しながら学習を進めることに効力感が感じられるようになっています。



H29児童意識調査「ペアやグループ学習で自分の考えを友達に説明できる」



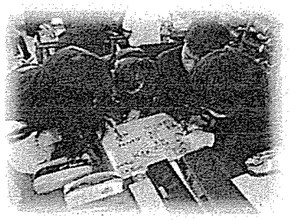
「友達の考えを聞いて『役に立った』『分かった』と感じたことがある」



2　効果があったと思われる取組

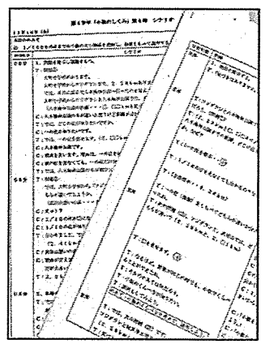
(1) 学年研究を充実させ，主体的・対話的で深い学びを育む授業につながる教材研究を行っています。
(2) 「解法の検討」場面を想定したシナリオ作成による学びの姿の具体的なイメージ化を図っています。
(3) 『大町小算数科「学び合い」スタイル』を示し，授業づくりの方向性を共有しています。
(4) 既習事項の確実な定着を図っています。

(1) 学年研究の充実



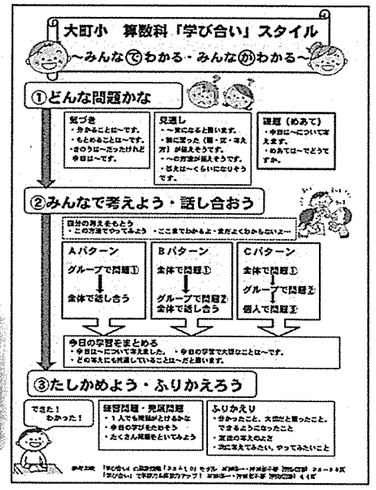
○教科書の読解を通して教材への理解を深めるなど、教材研究を大切にし、児童の主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり
・1つの授業を学年で「ああでもない、こうでもない」などと対話しながら作り上げていくことを大切にしています。そこで学んだ授業づくりのノウハウを他の単元、教科に活かしていくことで、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を目指しています。
○学習形態、授業構成の工夫
・主体的・対話的で深い学びにつながるペア学習、グループ学習、全体学習の在り方を探ります。
・学習のねらいに沿って、効果的な学習形態、授業構成を工夫しています。
・自己の考えをもってグループ学習に臨み、グループで取り組んだ課題の解き直しをする機会を確保することで、理解を深めることを目指しています。
○ミニミニ研修会で研修の日常化
・算数科の授業を中心に、自主的、日常的に学び合うことができる場を設定しています。

(2) 児童の学びの姿のイメージ化～「解法の検討」場面を中心に～



○教師によるシナリオ作成
・授業の構想を練る際に、児童の学びのイメージを膨らませます。
・「全体学習」が深い学びにつながるように、特に「解法の検討」場面について、学びの姿の具体をイメージしておきます。
○児童につかませたい数学的な見方・考え方を常に意識した授業づくり
・どのような数学的な見方・考え方をつかませ、どんな言葉が出ることねらうのか等、具体的にイメージし、学習指導案に明記できるように研究を深めていきます。
・ビデオカメラで記録する等、児童の姿から指導者間でつかませたい数学的な見方・考え方の共有化を図ります。
○先進校の取組からの学び
・文献や先行事例や先進校の研究会への参加、授業ビデオ視聴等により研究を深めていきます。

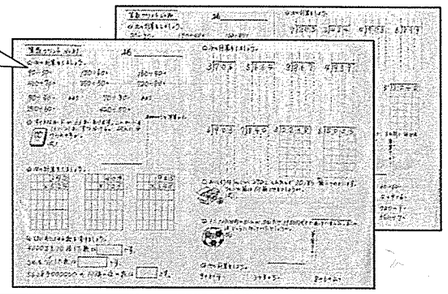
(3) 授業づくりの方向性の共有化



○『大町小算数科「学び合い」スタイル』
・「みんなでわかる・みんながわかる」を合言葉に、授業づくりの方向性の共有化を図り、『大町小算数科「学び合い」スタイル』を確立します。
○実践交流会の実施
・各学年の取組や成果と課題を発表し、研究の進捗状況や各学年に応じて付けておきたい力や付けてきた力を把握し共有します。
○外部講師による指導
・すべての学級で外部講師による指導を受け、授業改善及び授業力向上を図ります。
・ミニ研修会を、お互いに授業を見合う機会とし、主体的・対話的な授業のイメージを共有できるようにします。

外部講師による指導の様子です。

(4) 既習事項の確実な定着



宿題プリントの一例です

○既習事項を基にした「気づき」の交流から本時の学習の見通しをつかむことができるようにしていきます。
○「どの学習を使うのか」（見通し）、「どの学習を使ったのか」（解法）につながる力を付けていきます。
○家庭学習や帯タイム等で繰り返し学習し、定着を図ります。

【校長先生からのメッセージ】
「分からない子０」を目指して授業改善に取り組んできました。
子どもたちがどうしたら主体的に学習に取り組めるか，また対話を通してどの子も分かるようにするにはどのようなペア学習やグループ学習をすればよいのか，それぞれの学びを深めるための全体学習はどうあればよいのかについて研究を進め，今年度も『大町小算数科「学び合い」スタイル』をもとにした日常的な授業改善に取り組んでいます。みんなで取り組むからこそみんながわかるようになる算数授業を目指して，これからも教職員が心を一つにして授業改善に取り組んでいきたいと思っています。

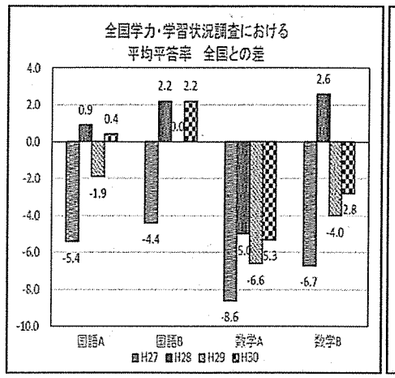
可部中学校

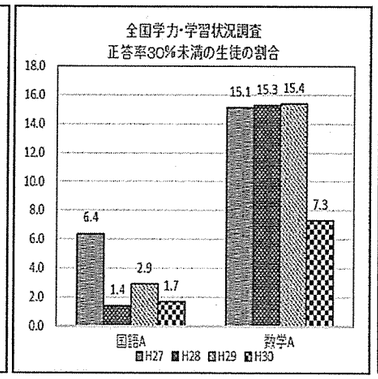
H28　学力向上推進事業「授業改善推進校タイプⅡ」指定校
H29　広島県学校図書館研究大会授業提案校
H29・30　学力向上推進事業「授業改善推進校・活用型授業研究校」指定校

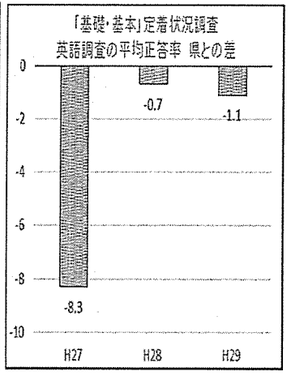
～　研究指定校制度を活用した授業改善の取組　～

1　全国学力・学習状況調査（「基礎・基本」定着状況調査）の結果

○　平成２７年度以降、平均正答率が国語において、全国平均を上回る傾向が見られるとともに、数学においても全国平均との差が縮まる傾向が見られます。
○　平成２７年度と比較して、正答率３０％未満の生徒の割合が、国語において減少するとともに、数学においても平成３０年度は大きく減少しました。







2　効果があったと思われる取組

○　広島市教育委員会の研究指定を受け、全校で行う教育委員会からの指導を継続して受け、授業研究会の充実を図りました。
○　実践研究の成果を踏まえ、「習得」した知識・技能を「活用」して、難易度の高い学習課題に挑戦するために、指導過程の見直しを進めています。

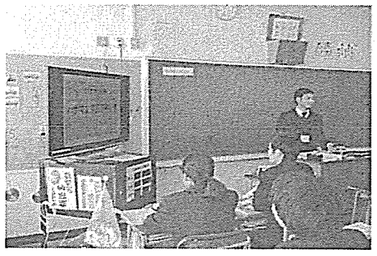
（１）研究指定校の活用

本校は平成２５年度～２８年度に「生徒指導集中対策指定校」等の指定を受け、いわゆる「荒れ」の克服に取り組んでいました。学校が落ち着きを取り戻してきたことや、基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な生徒が多いという課題に取り組むため、平成２８年度に学力向上推進事業「授業改善推進校タイプⅡ（国語・社会・数学・理科・英語）」の指定を受けることになりました。

平成２９年度からは、新たに学力向上推進事業「授業改善推進校・活用型授業研究校」の指定を受け、５教科だけでなく、９教科全教員が授業改善に取り組む体制を整備しました。

教育委員会の指導主事の指導を直接受け、年間約３０回の研究授業を行うことで、授業改善の取組が大きく進展しました。

また、研究授業の実施回数に合わせるかのように、生徒たちの授業に取り組む姿勢も主体的になっていきました。



（２）実践研究の成果を踏まえた、１時間の指導過程（指導案の書式）の改善

別紙４

教員が、どのような授業を目指すのか、共通認識を持つため、指導案に記載する内容は非常に重要であり、年度ごとに指導案の書式に改善を加えています。そこで、指導案に記載する内容がどのように変化したのかを示すことで、本校の授業改善の歩みを紹介します。

《平成２８年度の取組》
基礎的・基本的な学習内容の定着には、学習意欲を引き出すために高い学習課題を設定
【授業展開：ステップ１～３】
誰もが取り組める課題から、学んだことを活用する場面への学習過程を提示

＋α

《平成２９年度の取組》
既存の知識・技能を使って教科書よりも難しい学習課題に挑戦
【「活用の具体例」の記載】
「比較する」「関連付ける」など、活用の場面で、どのような方法で学習を進めるのか記載

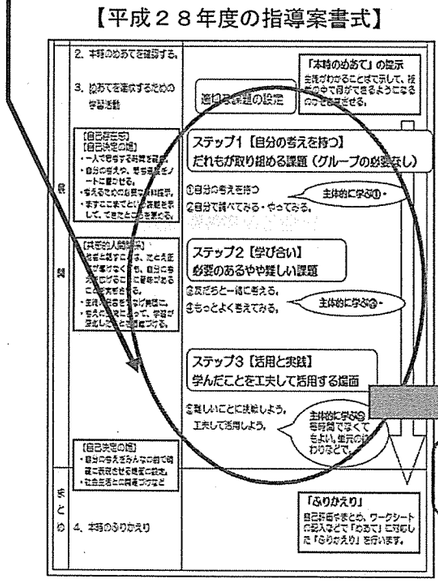
＋α

【平成３０年度の取組】
過去２年間の研究成果を踏まえ、さらに「豊かで深い学び」の実現を目指す
【「活用のタイプ」の記載】
１～４の活用のタイプを示し、授業者はどのタイプを選択したのかを記載

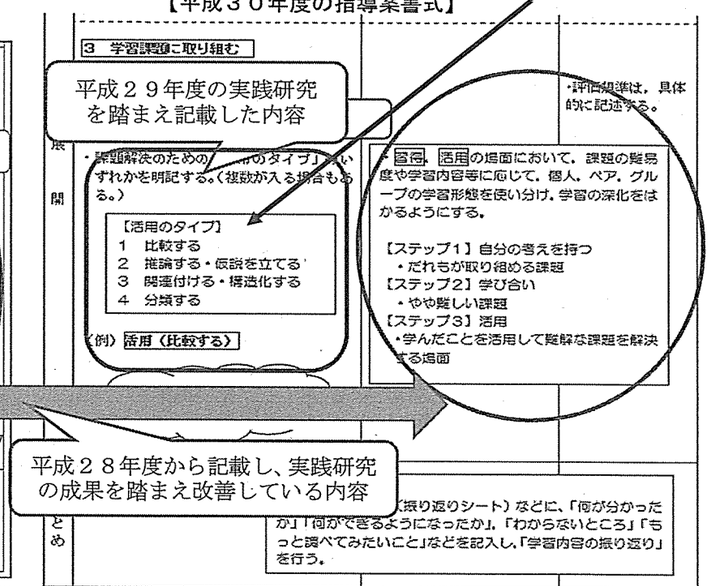
【効果】
・　学校全体で取り組む授業改善の方向性について共通認識が深まった。
・　授業者が、生徒にどのような思考をさせたいのか明確になり、その後の研究協議において検証がしやすくなった。

実際の指導案の書式の変化

【平成２８年度の指導案書式】



【平成３０年度の指導案書式】



平成２９年度の実践研究を踏まえ記載した内容

平成２８年度から記載し、実践研究の成果を踏まえ改善している内容

【校長先生からのメッセージ】
本校は、大きな「荒れ」の中、平成２７年度から「秩序ある学校生活の回復」と「確かな学力を身に付けるための授業改善」に継続的に取り組んできました。授業では、「何ができるようになるか」の視点から、「めあて」を「能力目標化」するとともに、授業構成を「可部中スタイル」として構築し、広島市教育委員会の指導の下、実践を積み重ねてきました。その結果、教師の授業力が向上し、子どもたちの「学びに向かう力」や「課題解決力」に曙光が見え始めました。今後も、よりよい授業づくりに向けてたゆまぬ努力を積み重ねてまいりたいと思います。